

この度は『オイル抜き用添加パウダー Ver.5.xx』を
ご購入頂きまして誠にありがとうございます。

Ver.5.xx



以前の材料が高騰して価格維持が難しくなってきましたので
国内のケミカルメーカーでベースのパウダーをOEMで量産して
生産コストを下げることで現状の価格で販売可能となり
 α テストを2か月、 β テストを14か月行い製品版へ移行させて頂きました。

【特徴】

最近のボールはオイル吸着系カバーストックを使用しています。
オイルを吸うことで摩擦力を向上させるのですが化学結合により
○□△等の固形添加物と素材のスキマにオイルが入り込み
飽和状態となりパフォーマンスが低下し曲りやピンアクションを悪くします。
そこで市販のケミカル剤（ボールステロイドワイプスやリムーバー）を使用し
オイルの通路の詰まったゴミやオイルを取り除きパフォーマンスを回復させるのですが…
通路はキレイになっても簡易的に化学結合してますのでオイルは勝手には出てこないの
お湯でじわじわ熱をかけてオイル抜きをすることでオイルと樹脂の化学結合が解かれ
オイルが外へ出やすくなりパフォーマンスが回復するというわけです。
このオイル抜き添加パウダーを入れることでオイルがより出やすい状態になり深層部にある
可塑剤の流出を防ぐ効果もありますのでお湯だけより効果的にオイル抜きを施工できます。

スペック

名称：OTP Ver.5.xx（オイル抜き用添加 バージョン5.xx）
シリーズ：スタンダードモデル
液性：弱アルカリ性
タイプ：粉末（パウダー状）
用途：ボウリングボールのオイル抜き用
使用量：1回分 付属スプーンに1杯（6g）
施工温度：55度までの温水
施工時間：1回 15分～20分
ラインナップ：チャック袋入り 90g
詰め替え用 235・375・500グラム
ビン入り 270g・400g

オススメの使い方

飽和状態のボールはオイル抜き前に#500アブラロンで劣化してる層をしっかりと
研磨して新しい層を出すことでオイル抜き効果が高まります。

【オイル抜き方法】 用意して頂く物

- ① 15リットルのバケツ1つ
- ② 55度程度のお湯の出る装置 （お風呂場とかが良いです。）
- ③ 温度計 ④ オイル抜き添加パウダー
- ⑤ 活性クリーナー又は、ボールクリーナー ⑥ タオル

※施工手順 （オイル抜きの頻度は、30G～50G毎がおすすめです。）

メンテナンス頻度やカバーストックの種類に応じて使用量と回数を調整してください

- ① バケツにオイル抜きをするボールを入れます。
（ホールに貼ってあるテープは剥がしておいてください。）
（この時ビニール袋とかに入れずにそのまま）
次にオイル抜き添加パウダーを1回分（6グラム）入れます。
※ オイルの吸収量の多いボールには 12グラム がおすすめです。
- ② 55度程度の温水をパウダーを溶かしながらボールが浸かるまで入れます。
※ パウダーが溶けるようにかき混ぜながら入れてください。
☆補足☆ 55度前後のお湯とは…手を入れて熱いって感じる程度の温度です。
- ③ 15分～20分間そのまま置いておきます。
- ④ お湯を捨てます。

【補足】飽和状態のボールなら同じことを後2回します。

新しいボールならこれで終了でも効果は十分あります。

- ⑤ 再度オイル抜き添加パウダーと55度程度の温水を入れオイル抜きを行います。
- ⑥ 15分～20分間そのまま置いておきます。
- ⑦ もう1回やって、合計3回（45～60分間）します。
- ⑧ 45～60分間やったらボールをバケツから出しボール表面に
活性クリーナー又は手持ちのクリーナーをかけます。
この時クリーナーを手で洗うように馴染ませ 3分程度 置いておきます。
- ⑨ 3分経ったら適度な温水で綺麗に洗い流してください。
- ⑩ 最後の仕上げに活性クリーナーで仕上げるとより効果的です。

指穴に入ってる水気はティッシュやペーパータオルを入れると良いです。
念のため、半日ほど乾かすと指穴の水気が乾燥します。

※オイル抜ききの注意事項（必ず守ってください！）

- ・高温ですのでくれぐれも火傷しないようご注意ください。
- ・バケツに割れや亀裂などの劣化がないことを確認してください。
- ・バケツ内部に突起物があるとボールにキズが入る可能性がありますので突起物に粘着テープを貼るなどしてキズが付かないようにしてください。
- ・バケツは15リットルの物を使ってください。
容量が少ないと温度低下が早くなりオイル抜きき効果が少なくなります。
容量が多いバケツの場合はパウダーを容量に応じて増量してください。
- ・お湯の温度は必ず55度前後でスタートしてください。
- ・ヒーターなどの加温装置を併用してお湯の温度を維持しないでください
お湯の温度が上下することでカバーストックに負担の少ない施工が行えます。
温度を維持するとカバーストックに負担がかかりクラックの原因になります。
55度前後でスタートし45度前後で終了するのがベストです。
- ・冬場など気温の低い季節はお湯の温度が20分後に45度以下にならないようにバケツにバスタオルを巻き保温し温かい屋内で施工してください。

【まとめ】

60度を越えた辺りから可塑剤が出始めます。
65度を越えると可塑剤が大量に出てきます。
55度という温度がカバーストックからオイルが抜け樹脂素材の負担が少ないオイル抜ききを安全かつ効率的に行える温度です。

※70度以上のお湯は絶対に駄目！！

（可塑剤の流失で硬度の変化と表面にクラックが入る可能性があります。）

（コアとカバーストックの熱膨張率の違いで内部にクラックが入る可能性あり）

※1回に20分以上しない事！

（お湯の温度低下により表面に出たオイルをまた吸ってしまいます。）

※1度に3回以上（60分以上）しない事

（カバーストックと樹脂素材に負担がかかり劣化する可能性があります。）

（コアとカバーストックの熱膨張率の違いで内部にクラックが入る可能性あり）

※3回してもヌルヌル感が取れない場合は12時間程度経過後再施工してください。

（カバーストック深層部のオイルが上昇して排油が追いつかない状態です。）

※使用上の注意※

pH11（家庭の洗剤と同程度のアルカリ性）で安全性の比較的高い浸透洗浄剤ですが下記の注意事項をお守りください。

- ①冷水に溶解しにくいので必ず温水でご使用ください。
- ②漬け置き型洗浄剤ですので、スプレーなどに入れて使用しないでください。
- ③使用後は、直ちにボールをすすぎ、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- ④目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけはやく医師の診察を受けてください。
- ⑤湯気を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- ⑥誤って飲み込んだ場合には、無理にはかせずに水で口の中をすすぎ、できるだけはやく医師の診察を受けてください。
- ⑦パウダーは袋又はビンに密封して直射日光を避け、風通の良い、湿気の多いところや水のかからない冷暗所に保管してください。

※オイル抜きをしてボールが白く変色するという現象について

国産のナノデス系、モーティブ社などの一部のカバーストックは

カバーストック表層部のオイルが除去されるほど

オイルがあったスペースに、空間ができ白く見えてしまうことが良くあります

投球して、オイルが再付着すると白いのが消えると思います

見た目だけのことでカバーストックがおかしくなったとかではありませんのでご安心ください、白くなるということはボールのカバーストックがちゃんと機能してオイルの吸排油を行っているという証でもあります

白くならなくなってきたら リサーフェイス（深めの箱出し研磨）の時期の目安にもなります

詳しくは【<https://ballmaintenance.nomaki.jp/>】をご覧ください

尚、ご不明な点は、【teteko_7@yahoo.co.jp】までお問い合わせお願いします。

お買い上げありがとうございました、またのご購入お待ちしております。



〒638-0812

奈良県吉野郡大淀町桧垣本2093-250-306

nana neko FACTORY 上山 哲範

090-3270-2824 0747-52-4152

2025.7.28 改訂